

第二十九回 龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバル

第二十九回龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバルが令和二年十月二十八日（水）から十一月十五日（日）までの間、開催されました。会場となった文化会館は、市の公共施設ネーミングライツ事業により本年七月一日に愛称が「大昭ホール龍ヶ崎」となり、記念すべき初めてのイベントとなりました。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、三密を避け、ソーシャルディスタンスを確保する等の対策を講じ、例年とは異なる形での開催となりました。

発表の部では「歌謡舞踊と小曲のつどい」を、展示の部では「絵画展、盆栽展、洋らん展、書道展、俳句・短歌・川柳展、篆刻・陶芸・工芸展」がそれぞれの期間の中で展示され、延べ三千五百人の入場者数がありました。

今年度より文化協会に加盟した「バードカービングカワセミの会」による工芸作品の出展もあり、規模を縮小した中でも、発表の部、展示の部ともに魅力に溢れるフェスティバルとなりました。

本フェスティバル運営委員会の松田委員長は「コロナ禍において、発表や

展示ができない、創作活動に力が入らない、といった多くの悩みがある中で、第二十九回龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバルの開催は活動家にとって大きな励みになります。コロナ禍を断ち切って普段の生活に戻ることを望んでおります。」と、おっしゃっていました。（事務局）



編集後記

「緑龍文化」第三十四号をお届けいたします。新型コロナウイルスが世界で大流行し、五千八百万人（R2・11現在）が感染し、死者は百四十万人を超え、増加の傾向が続いています。

日本では、十三万人余りの人が感染し、死者は二千人を超え、増加を続けている現状です。身近な茨城県は、全国十二位の感染状況で、これからのイベント・行事も厳しい時代になります。

今号は、活動がむずかしい状況のなか、各サークルの活動内容を紹介します。大変な時期ですが、ワクワク等開発されるまで、お互い行動に気をつけた生活を維持しましょう。

（副会長 小林）

令和2年度 本部会役員紹介

役職	氏名	加盟団体名
会長	松田 高義	舞踊部
副会長	小林 一光	ウッドパーニング
副会長	高橋 玉枝	茶道部
副会長	菊地 義正	絵画部
企画局長	椎名 馨	陶芸クラブどんぐり
渉外	三井 好子	吟詠部
渉外	新井 洋子	書道部
広報	朝岡美智子	龍ヶ崎子どもミュージカル
会計	三上タカコ	華道部
会計	櫻井 朋子	桜井クラシックバレエ教室
監事	小野寺 勇	らん友会龍ヶ崎